



長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261 (22) 5542
FAX 0261 (23) 0766

農業農村整備広報大賞受賞

当協議会が毎年行っている子ども絵画展、農業体験、ふれあいイベントなどの活動や、広報誌の発行を通し、広く市民にPRすることでゴミの量の減少や、農業用水の重要性を認識してもらった活動が評価され、全国農村振興技術連盟が主催する平成22年度農業農村整備広報大賞の「優秀賞」を受賞しました。

この賞は、平成3年度より、農業農村が有する多面的機能の発揮のための地域活動や広報活動等への参画、関係組織への支援をおこなったもので、その成果が特に優れていると認められる団体を対象とし、全国から79団体の応募があった中から、厳正な審査の結果、広報大賞2団体、優秀賞7団体、奨励賞、企画賞、特別賞が選ばれました。活動自体には派手さはありませんが、地道に継続することにより、用水を地域の宝として今後も大切に守り、下流地域に引き継いでいくことが、上

流地域で生活する者の責任であるという意識を芽生えさせる場所であると捉え、今後も協議会の中で、反省点や参加者の要望、意見等を活発に論議し、積極的に取り組んでいきます。



源流を訪ねて

今年度も、米づくり体験学習を行っている大町西小学校には、校内を流れる川が有ります。その川の水が「いったいどこから来ているのか」そんな生徒たちの疑問に答えるため、生徒たちと共に小学校から源流までたどる探検に同行しました。

早朝の校庭、残念な雨降りの中でしたが待望の野外学習ということで生徒達は張り切り、元気な声が響きました。出発のあいさつの後、源流を目指し、いざ出発。

最初の休憩地、高根神社で川の流れに関する説明を聞く頃には、朝から心配された雨もすっかり止み、青空の広がる好天気となりました。途中で出会った人達と交わすあいさつも元気



早苗田の清々しい中を目的地に向かって



冷たい水に歓声を上げる子どもたち

いっぱい！新緑のなか農作業する人が手を休め生徒達に手を振る姿もありました。

続いて青木湖導水路御所川分水を見て、更に上流の越荒沢堰沿いの管理道路などを歩き進みました。そうしたなかで、上流に行くほど水が澄んできれいだという事に気づいた生徒からは、感激の声があがっていました。それと同時に疲れも出てきたのか、質問の声も「あと何キロ?」「あと何分?」に変わりました。

ようやく猫鼻親水公園に到着、鳥の声を聞きながら親水池周辺で水や草花に触れたりして暫く過ごしました。

約3時間半かけて学校から歩き、自分達の身近を流れる水の源に辿り着いた時、水の働き、大切さ、そして取り巻く生物などを知る生きた学習ができた事と期待しつつ帰庁しました。

大震災に改めて水の大切さを思う

三月十一日に発生した東日本大震災、翌日十二日に発生した栄村大震災、予想を遙かに超える大津波に一瞬に全てを呑み込まれた方々、地割れや地滑りで避難を続けている方々、全ての土地が汚染されてしまった方々、ご家族を亡くし深い悲しみにくれる方々等々、未曾有の大災害で被災された方々には、心から哀悼の意を表すとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、三月中旬の東北、信州はまだまだ冬の終わりは感じられない季節、観測史上最悪の大地震は、多くの人々



北アルプスからの清らかな贈りもの

が寒空に投げ出され、現在なお避難所生活を余儀なくされています。

そして、地震はライフライン全てを破壊し、多くの地域で救援物資を頼る他ない状況となり、特に水の不足に対する影響は著しく長く提供が呼びかけられ、多くのペットボトルが各地から被災地に届けられたところですが、北アルプスの源に位置し、満々とした雪解け水を、市内に張り巡らされた水路を使い、何不自由なく利用できる当地域に、もし方が一大きな地震が起きたことを想像すると、まず取水施設や水路は破壊され、普段のように水が流れてはいないことが予想されます。

しかし、希望的に考えてみると、行政が行うライフラインの復旧に併せて、住民がアルプスから流れ出る水の確保を協力し合えば、少なくとも沸かせば食事にでも、飲み水にでも使える水が近くにはあると言うこと、それは何より幸せなことであると感ずります。

大きな災害に対する準備や心構えは何より大切だと思いますが、北アルプスからの大切な贈り物である清らかな水を、大町市が大切にしてお守りすることなく下流にまた流していくそんな心が、将来起こるかもしれない災害に対しても大きな力となると感じました。

第十一回 ふれあいイベント

第十一回目となるふれあいイベントは、夏の太陽が照りつける猛暑の中、約八十人の方々に参加をいただき、猫鼻親水公園周辺の雑草取りや、魚つかみ、魚の放流などを行いました。

8/21の当日は、開会式時点で既に気温は30度、木陰にはいると若干涼しく感じる陽気でしたが、熱中症に気を付け、水分補給をこまめに取りながら、子ども達やお母さんは四阿周辺の草むしり、お父さんやおじいちゃん、越荒沢堰沿いの草刈りに精を出してもらいました。



大人も子供も一生懸命

続いて行われた恒例の魚つかみでは、これまでは子供中心でしたが、あまりの暑さからか、今年は子ども達を優先にしながらも、大人も一緒に水に入っ



水質を見比べる特設ギャラリー

子ども達と一緒に大はしゃぎでした。

また、特設ギャラリーとして、市内十数カ所の水路の水を採取し、水温、PH、CODを調査した結果を展示し、イベント会場を流れる澄んだ水が、わずか数キロメートル流れ下る間に汚れてしまっている現状を大勢の参加者に見てもらい、用水路の水をいつまでも綺麗に保てるよう理解を持ってもらうように試みました。

このイベントも初回以来十年を超えました。当時の公園もすっかり周囲の自然に溶け込み、また参加者の数も年々減ることがなく、世代を超えて毎回の盛衰に終わることができ、趣旨に添った成果を上げて来られた事と大変感謝して公園を後にしました。

時代と共に移りゆく町川の流れ

今から一二〇年ほど前の明治二〇年十一月、古くから大町の中央通を流れていた町川は埋め立てられて、地表からは完全にその姿を消しました。今、中央通の歩道下を流れている都市下水路は、かつて飲用や防火、木流しなどに使われ、ここに住む人々に多くの恵みを与えてきた町川のなごりです。では、この川は、長い歴史の中でどのような変遷をたどったのでしょうか。今回は、この「町川」について考えてみたいと思います。

大町の市街地に人が住むようになったのは、今から八〇〇年ほど前、鎌倉時代の初めと考えられています。その頃には既に、農具川沿いや社の段丘上、周辺の山麓などにも集落ができており、街中にも「市」が立つようになっていました。初めは、目を定めて人が集まり、露天や戸板の上に品物を並べて商うような状態であったことでしょう。この市の水は、最も手近な農具川から引いてきました。これが最初の「町川」の姿で、今も相模川や東側の水路に、その面影を残しています。

室町時代に入る頃、この地方を治めていた仁科氏は、西の鹿島川から自然に流出している支流に着目し、これを都市用水として利用することを考え出

しました。取水口を鹿島川中流の「猫鼻」に求め、ここから自然流下する水を制御し、はるばる市街地まで水路を整備して「町川」と名づけました。市街地へ町川が流入する付近には、「水配神（みくまりのかみ）」として自らの祖先神などを祭り、若一王子権現としました。また、町川の一部を二ツ屋付近で別けて「御所堰」を整備し、市街地の西側に設けた自らの居館（「やかた」）へとつなぎました。御所堰よりやや下流でもさらに分枝して「越荒沢堰」とし、鹿島川の冷水を木崎湖へとつないで木崎湖の増水を図りました。これにより軍事拠点である「森城」の守りを固め、農具川経由で温水の増量を図り、さらに横堰を整備して社の段丘上まで導水することに成功しました。こうして市街地へは鹿島川の冷たくおいしい水が届くことになり、この水は町裏を流れる「裏呑堰（うらのみせぎ）」として分水されて飲用や生活に使われ、町川本は流排水路としての役割のほか、薪などを流す「木流し」にも利用されました。「土場」とは、薪などを引き上げた場所のことです。

戦国時代には町並みの原型が完成し、江戸時代に入ると治水も進み、農業技術の進歩と共に盛んに新田開発が

行われるようになりました。しかし、鹿島川・農具川水系で利用できる水量には、限界があり、水利権を巡る争いが頻発しました。そこで籠川に注目しました。二〇〇年ほど前、大町の人々は協力して温泉郷の裏山を掘り割り、籠川から新たに「大町新堰」を引いて大原や野口、西原などの新田開発を進め、この流末を王子付近で町川とつなぎました。この結果、利用できる町川の水量は飛躍的に増加しました。

明治以後のいつの頃か、「町川」が「越荒沢」に、「越荒沢」が「森堰」になり、大町新堰と一体化した町川は「南荒沢」と呼ばれるようになりました。その後、明治の後半には地下水路となった町川ですが、昭和二六年から始まった高瀬川上流域総合開発によって市街地へ流入する水路は、昭和電工の青木湖導水路とつながり、現在は、この導水路と密接不可分の関係があります。以上



(文責 荒井今朝二)

が「町川」の移り変わりのあらましですが、現在も市街地の流雪溝や環境浄化、防火などに大きな役割を果たしていることには変わりはありません。

ふれあいイベント 『土・人・水』

参加者募集

恒例になった、ふれあいイベントは、今年で十二回目となりますが、昨年同様、越荒沢堰親水広場周辺の雑草取り、子どもを中心とした魚のつかみ取り、用水路への魚の放流などを行います。

また、当日は親水広場で「案山子コンテスト」を行います。出展作品を募集しますので、下記事務局までお問い合わせください。

なお、当日は昼食（おにぎり）とお茶を用意します。

◆主催 水土里ネットおおまち

◆日時 八月二十日（土）

午前九時開会
正午終了予定

◆会場 平猫鼻 越荒沢堰親水広場

◆持ち物 作業のできる服装
(雨具、軍手等)

◆申込 八月十二日迄に左記まで
水土里ネットおおまち

(大町市土地改良区)

TEL: 221-5542

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2010

大町西小学校5年生が、総合学習で取り組んだ米作りを通して体験した農作業の様子を、それぞれが力強いタッチで表現してくれました。米作り体験を通じて感じた用水の大切さをみんなが理解して、これからも大事に守っていくという意識が生まれたことを期待しています。

寄せられた作品は水土里ネットおおまち地域用水対策協議会で審査を行い、協議会の席上で牛越会長より表彰状と記念品が贈呈されました。受賞作品は次のとおりです。(敬称略)

会長賞



「稲刈りをする僕」

酒井 勇輝 (大町西小5年1組)

理事長賞



「友達と協力して稲をしばっているところ」

山本 里枝 (大町西小5年2組)

入 選 (大町西小5年1組)



「イネを持つ僕」

市岡 尚悟



「稲をむすぶほくたち」

小林 遼大



「二人でやったイネのひもむすび」

武原 秀

入 選 (大町西小5年2組)



「がんばった稲刈り」

宇海 祐奈



「いっしょうけんめい稲ををかっている所」

小林 永佳



「大変で楽しい稲刈り」

峯村 わかな